

事務事業評価表（公共施設）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年3月31日
2次評価日（課長等）	26年5月31日

1 事業名	湊支所運営事務			コード	161205	
2 担当部課	部等	総務部	課等	湊支所	作成者	宮坂 文利
3 事業概要	目的体系	基本目標	総合計画の推進に向けて			
		政策	総合計画の推進に向けて	施策	市民総参加のまちづくり	
		予算科目	湊支所運営事務費	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
		設置条例	岡谷市役所支所設置条例			

●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）	
施設の概要 （簡潔に）	本庁行政サービスの補完的役割を果たす。	
目的	対象者	市民（主に湊地区住民）
	意図	中心市街地と離れ、地理的に不利な状況を補完する。

5 施設の管理運営状況	
指定管理者	25年度指定管理料 円
施設における 通常業務	・市民生活課、税務課、医療保険課、社会福祉課、介護福祉課、水道課を始めとした行政サービス全般の窓口受付業務。 ・証明等の交付、各種届けの受付、市税及び保険料等の受領、販売及び手続きなど。
事業の実施内容	（25年度に施設で行った運営事業・自主事業など） 【有料利用内訳】 ・市税等 412件 6,031,200円 ・使用料及び手数料 1,939件 739,188円 ・諸収入等 127件 2,450,193円 ・特別会計等 355件 2,156,266円 ・介護保険 15件 80,950円 ・交通災害共済 5件 4,400円 ・湊財産区 19件 869,050円 【無料利用内訳】 ・住民異動届出等 72件 ・無料証明 0件 ・軽自動車納税証明 26件
前年度の課題への対応	支所窓口において行う事が出来る業務の一覧を作成し、利用者に配布出来るようにした。窓口接客業務についての意識向上を図るため、職場研修を行った。

6 施設の利用状況	*②・③はどちらかの欄に記入				
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)	
① 施設稼働率	100.0%	100.0%	100.0%		
年間開設日数（日）	244	245	244	244	
1日の開設時間（時間）	9	9	9	9	
年間利用可能時間（時間）	2,196	2,205	2,196	2,196	
年間利用実績（時間）	2,196	2,205	2,196		
② 年間利用者数（人）	0	0	0	0	
有料利用者数					
無料利用者数					
減免措置者数					
③ 年間利用件数（件）	3,015	2,721	2,970	3,000	
有料利用件数	2,931	2,649	2,872	2,900	
無料利用件数	84	72	98	100	
減免措置件数					
④ 1日あたり利用者数、件数	12.4	11.1	12.2	12.3	
⑤ 施設利用状況の説明					

7 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	3,349,068	1,770,330	1,751,970	1,757,000
経常経費	1,656,270	1,770,330	1,751,970	1,757,000
臨時的経費	1,692,798	0		
* 臨時的経費の説明				
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
② 人件費	4,000,000	4,000,000	4,000,000	4,000,000
正規職員の人数(人)	0.50	0.50	0.50	0.50
③ 合計コスト(①+②)	7,349,068	5,770,330	5,751,970	5,757,000
前年度比		78.5%	99.7%	100.1%
財源	5,435,584	5,770,260	5,751,950	5,756,000
内訳				
一般財源	5,435,584	5,770,260	5,751,950	5,756,000
特定財源	1,913,484	70	20	1,000
* 特定財源の説明	私用電話料			
④ 施設使用料年間収入額	0	0	0	0
⑤ 年間減免措置額	0	0	0	0
⑥ 受益者負担割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
⑦ 活動一単位あたりコスト	1,876	2,121	1,937	
前年度比		113.0%	91.3%	
⑧ コストに関する補足説明				

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

標準

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。		0
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性＝施設の利用状況（項目6／住民の満足度）は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ 施設の利用者が増加した。	1	
1日あたり利用者数、件数	前年度比 109.6%	
⑤ 施設使用料収入が増加した。		0
施設使用料年間収入額	前年度比 0.0%	

●改善の内容(ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること)	
	窓口サービスの所要時間、支所窓口で可能なサービスについての情報提供の不足。	
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容)	
	支所窓口において行うことの出来ない業務、窓口において時間の掛かる業務の目安時間を掲示し、お客様に示す。	
改善開始時期	平成26年4月	

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	
13 大規模修繕の予定			
予定事業費		円	予定時期
内容			